

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名					
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 5日	～	令和 7年 2月 1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数)	16名	
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 10日	～	令和 7年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 9日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ネバーランドグループによる、年齢に合わせたお受入れ体制を整えている。保護者様へ細やかに情報共有を行い、将来に向けたサポートなど保護者様との信頼関係を目指している。	取り組みの内容では、常に新しい取り組みを企画し、お子様が楽しみながら、笑顔と達成！「できたよ」の自信に繋げる支援を行っている。	学校・関連事業所との情報共有を強化し、共通理解と利用者様の支援統一を図っていく。更に保護者様とのモニタリングでは、ニーズや課題をしっかりと捉え、日々のコミュニケーションにて支援計画に取り入れていく。
2	低学年の保護者様・高学年の保護者様といった年齢対象別に、保護者会を開催している。	保護者様が、どんな悩みや不安・・・将来の進路など、情報の収集を行い、必要な関連事業所などの周知を行っている。	お子様の成長段階での様々な悩みを一人で抱え込まないよう、同年代の親御様らとの交流の機会を設けていく。
3	ハグアプリを導入し、親御様のスマートフォンによりご利用予定の申し込みや、メッセージなど多忙な保護者様と事業所とのスムーズなやり取りに活用している。更に、活動記録では、お子様の様制作物や取り組み様子を撮影し、親御様とグループアルバムLINE組み、ご利用時に送信している。	日頃のお子様の活動様子を、ホームページや、ブログに掲載している。個人情報取り扱いには、詳細の注意を払い、保護者様の許可なく発表・公開をしない旨の同意書をいただいている。	事業所の見える化を意識し、SNSの活用を進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	団体での行事を開催する際に、限られた場所の中でなかなか開催する事が難しい。	自治体との連携を図り、お子様の制限をしなくてもよい開催場所を考えていく。	地域活動などの情報を取り入れていく。
2	野外活動の機会を増やしていく。	外出時に同行者を増やして安全な移動体制を整える。	人員を確保して、活動の場を広げていく。
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ネバーランドメイト					公表日	令和 7年 3月 12日	
		利用児童数			令和 7年 2月 1日	回収数 16名 / 29名		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	1		1	気持ちもう少し広いと良い	活動スペースについて説明を行う
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15			1		細やかに事業所内の説明を行っていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	1		5		設備等に関する説明を行う
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	1		1		環境整備に心がけ、適切な空間作りをし ていく。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15			1	専門性については分からない	専門性のある支援に関わる説明を行う
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16					継続していく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15			1		個別支援計画についてより細かく共有し ていく
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15			1		提供すべき支援について丁寧な説明を 行っていく
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16					継続していく
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16					継続していく
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14	2				地域交流を図っていく
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。						継続していく
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。						継続していく
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10			5	ペアプロを知らない	ペアプロについて説明を行っていく
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	16			1		より細やかな情報の共有を目指していく
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16					継続していく
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16					継続していく
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14		2		兄弟の支援についてわからない	ご兄弟の交流の場を増やしていく

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応	
保護者への説明等	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15			1	対応の整備の周知がわからなかった	対応の体制について説明していく
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15			1	配慮については分からない	より細やかな情報の共有を目指していく
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14			2	アプリやLINEで共有されている	評価の結果を分かりやすく発信していく
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16					個人情報の取り扱いについて説明を行う
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14			2	防災訓練は把握している	活動の周知を徹底する
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14			2	防災訓練しか把握していない	活動の周知を徹底する
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16					継続していく
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15			1		事業所でのマニュアルに基づいて説明を徹底する
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16					継続していく
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16					楽しく通所してもらえるよう努める
	29	事業所の支援に満足していますか。	16					楽しく通所してもらえるよう努める

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ネバーランド メイト		公表日	令和 7年 3月 7日
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		デイルームを2階、3階と分離型にしている。 音に敏感な子のためにより防音されているスペースを作る。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		適切に配置されている。 継続していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13		適切ではあるが、階段に注意を行っている。 階段の移動の際には、注意をばらう。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13		活動に合わせてデイルームを分けている。 環境整備に心がけ快適な空間を目指す
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13		クールダウンの時等個別の場所を使用することができる環境作りを行っている。 継続していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13		業務改善に率先して取り組み、目標や課題として職員で取り組んでいく。 継続していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		自己評価表、イベント毎のアンケートを行い、業務改善に役立てている。 継続していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		スタッフが自分の意見を言える環境作りをすると共に、意見を反映してより働きやすい環境を心がけている。 継続していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		13	法人で検討中。 再度行方。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		社会福祉協議会や地域で行われる研修等様々な研修に参加している。 スタッフの業務向上を継続していく
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		作成している。 継続していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13		情報を共有し、支援を計画し、実践・改善を行い質の高い支援を目指す 継続していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		情報共有、確認事項、配慮点など強化していく。 継続していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		情報共有し、それに沿った支援ができるよう話し合いをしている。 継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13		日の振り返りを行い、翌日の支援に活かせるよう日報に細やかに記入、共有と把握に努めていく。 継続していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		放課後等デイガイドラインの資料と共にチームで共有していく。 家族支援、移行支援、地域支援にも力を入れていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		どの年齢の利用者様も楽しむことができるよう活動プログラムを話し合っている。 継続していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13		お子さんの興味ある取り組みや、季節感を踏まえその時に合った活動を取り組んでいく。	継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13		多面的、多角的な視点で作成していく。	継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13		午前：常勤会ミーティング午後：非常勤ミーティングを行っている。充実した内容となるよう、チームで考えていく	役割分担、支援の統一に心がけていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13		一日の振り返り、報告、対応策など細やかにやっている。	継続していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		記録・情報共有、確認事項、配慮点など強化していく。	継続していく。
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		半年に一度モニタリングを行い、必要に応じてそれ以外でもモニタリングを行っている。	継続していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	13		行っている。	地域交流の機会にも力をいれる。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13		本人の意思決定を尊重し、「できたよ」の達成から自己肯定感を伸ばしていく。	継続していく。
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		管理者と職員が参加することが多い。
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13		様々な機関と連絡を取り、連携して支援している。	継続していく。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13		学校からいただく下校時刻表で確認を徹底している。	継続していく。
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	13		必要に応じて情報共有を行っている。	継続していく。
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13		同グループでは、デイの移行制度があるため、移行する前年には事前に打ち合わせを行い、支援内容を共有している。	継続していく。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	13		連携を図っている。	必要に応じて助言を頂けるよう働きかけていく。
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		13	交流はほぼない。	地域のイベント等の交流を目指す。
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	13		参加している。	継続していく。
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		日々の伝達を行い、その都度話し合いが出来る。	継続していく。
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13		ペアレントプログラムが来年度東区で開催している。対象児童の保護者様の誘いを行っている。	継続していく。ペアレント講習を令和3年・4年度実施・（ペアレント研修修了者・講師資格者配置）
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		契約時に説明している。	継続していく。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		保護者様の意向を確認している。	継続していく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13		支援計画の説明をし、同意を得ている。	継続していく。
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		利用者様の様子をみながら必要に応じて話す機会を設けている。	継続していく。
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	13		保護者会を開催し、親御様同士の交流の場を提供している。	様々な形での保護者会を企画する。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		職員同士での伝達を強化し、迅速な対応が出来るよう体制を整えている。	継続していく。
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		アプリを使用した毎月の予定の発信やHP等を更新している。	継続していく。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		スタッフに対しては個人情報取扱い同意書の記入、利用者様に対しては写真許可や他の利用者様の個人情報の漏洩防止の同意を徹底している。	継続していく。
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		視覚的支援を取り入れている。	継続していく。
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13		過去に行ったことがある。	事業所のイベントに近隣の方や、関連事業所の方を招き、交流を深めていく。
非常時等の対応	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		マニュアルを事業所で作成し、契約時に説明している。	事業所しおりなどで細やかな説明をしている。
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		月に一度避難訓練を行っている。	継続していく。
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13		必要な対象児には対応マニュアルを作成している。	継続していく。
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13		アレルギーを表を基にスタッフ間の情報共有を徹底している。	保護者様から伝達されているが指示書に基づいているか再度確認する。
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		研修に参加し、日々の安全管理に役立っている。	継続していく。
	51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13		周知している。	安全計画を定期的に見直し、最新の情報を周知するよう努める。
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		日報の中にヒヤリハットの記載欄を作り、ミーティングで共有している。	再発防止に努めていく。
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切に対応しているか。	13		社内で虐待防止委員会を設置し虐待防止に努めている。	定期的にチェックシート・研修を全社員が行っている。
54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13		必要な利用者様に対しては事前に計画を立て同意を得ている。	保護者様への説明を怠らず、ご理解と同意書をいただき、計画書にて記載していく。	